

ウェブ補論 7章 クラウディングアウト (p.182)

本でも説明したように、クラウディングアウトとは、政府支出の増加が金利の上昇を通して民間の投資を減らすということです。実はこのクラウディングアウトは、貨幣需要が金利だけでなく国内総生産にも依存する場合(第6章7節)、物価水準が固定されていても発生します。

第6章で説明したように、貨幣需要が金利の減少関数でかつ国内総生産の増加関数である場合、貨幣需要の均衡を示すLM曲線は、Yr平面上において右上がりの形状となっています。従って、政府支出が増加し、右下がりのIS曲線が右にシフトすると、図6.17(a)が示すように、均衡金利が上昇します。均衡金利が上昇するということは、金利の減少関数である投資の値が減少するということを意味します。これがクラウディングアウトです。例えば、6章の練習問題⑦の(3)において、政府支出が10だけ増えることにより、均衡金利は0.25上昇しますが(p.296の解答参照)、投資関数が $I=6-20r$ ですので、投資の減少量は $\Delta I=-20\Delta r=5$ として計算できます。この5がクラウディングアウトの量といえます。